令和4年度 学校関係者評価書

課題	対応策	学校評議員の評価	取組の状況
●あいさつができない、または声が小さい。	 ◇心をこめた明るいあいさつをする> あいさつをすることの意義を児童に意識させる指導を行う。 ○「あいさつかがみ運動」の実施キーワードは「相手をみて」「相手に聞こえる声で」教室にポスターを掲示する○「すばらしい、すてきなあいさつ表彰」の実施なり、すてきなあいさつ表彰」の実施なり、大大変をしている児童を記録し、毎月集計をして表彰する。 	○ とても素晴らしいと思う。あいさつでもたらされる効果を共有することが大切。 ○ あいさつは社会生活の基本である。いつでもどこでもだれにでも大きな声であいさつできる習慣を身に付ける必要がある。 ● 保護者のあいさつができていない時がある。PTAでも周知していく。	つが増えてきた。声の 大きさも改善されてき た。 ・ 全校児童がに浸透 するよう、個に応じた
● 廊下を走る児童が多い。● 指導を繰り返しているが徹底できていない。	共通 字 (正しい廊下歩行> 全職員が声を掛けて、意識付けを行っていく。 の「ろう下歩行日本一の日」の設定 安全委員会を中心として11月に実施。児童相互で呼び掛けをする。 の「ろう下歩行チェック」 安全委員会による点検を11月に行う。		る場面もあり、意識化 が進んでいる。 ・「廊下歩行日本一を
● トイレのスリッパや靴が揃っていない。	<くつ(スリッパ)のかかとを揃える >	● 家庭でのしつけとも関連することである。保護者への啓発も必要である。	 以前より並べられていることが多いが、トイレのスリッパについては、学年により差が見られる。 引き続き、効果のあった取組を継続する。